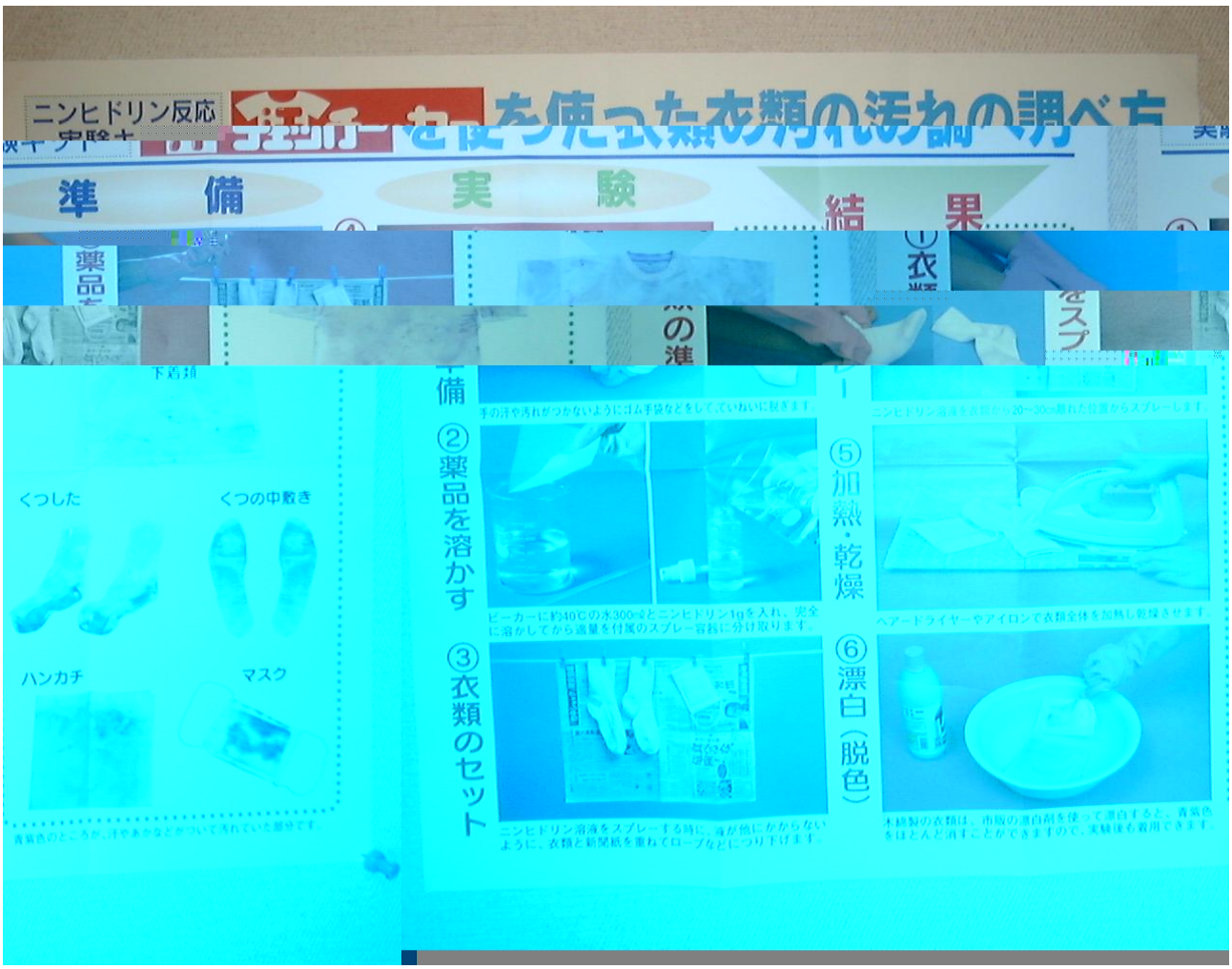

5．まとめ

新指導要領が導入され、技術・家庭科では時数の削減がされ、またカリキュラムにおいても各学校が工夫をした特色あるカリキュラムづくりが必要とされている。その中で、学んだことが生活に生かされるためには、どのように基礎・基本を身につけるかが大きな課題といえる。自ら学び自ら考える学習を通し、「わかる」喜び「できる」喜びを感じることで基礎・基本を身につけ、それが実践力につながっていくのではないかと思う。

学校での調理実習は、食事を整える経験の少ない子どもたちにとって貴重な体験である。今回は、調理実習の前に計量の仕方と調味料の重量の違いを学んだことで、実習の際には意識をして計量を行い仕上がりもよかった。また調理室の使い方にも慣れ、スムーズに実習に取り組むことができた。衣服の手入れについても、白いシャツが汗の汚れで紫色に変色をする瞬間は驚きの声が上がる。洗濯の必要性を言葉でいわなくても感じることができると思う。

子どもたちは、作業学習には興味関心を持って取り組む。今回の題材についても指導計画の中で扱いやすいものを選び授業に取り入れたが、実験には時間もかかるため教師側が内容と必要性を吟味し、指導計画の中に組み込んでいくことが大切だと思う。また、評価についても評価基準と照らし合わせ、適切な評価場面・評価方法を検討していきたい。